

(通称)泣塔について

市指定有形文化財「石造宝篋印塔（文和五年銘）」（通称：泣塔）が建つ丘は、深沢地域整備事業用地にあります。

今年度（令和6年度）から深沢地域整備事業（土地区画整理事業による工事）の準備工事のため、整備が終了するまではご見学いただけませんので、ご了承ください。



鎌倉市指定有形文化財

石造宝篋印塔（文和五年銘）

一基

（昭和46年9月11日 指定）

宝篋印塔は、舍利塔の一つの形式をいいます。

総高203cmの安山岩製で、関東形式宝篋印塔の典型といえます。

基壇の銘文には「願主行浄 預造立 石塔婆 各々檀那 現世安寧 後世善処 文和五年申丙二月廿日 供養了」と刻まれています。文和五年（1356年）は新田義貞による鎌倉攻めのあった元弘三年（1333年）の23年後にあたります。この塔は当時の「洲崎の合戦」における戦死者の23回忌の供養として建てられたと考えられています。

「泣塔」の名前は、この塔を手広の青蓮寺に移したところ、夜な夜なすすり泣く声が聞こえたため、元の場所に戻したことに由来するなどといわれています。

泣塔に関すること…鎌倉市教育委員会 教育文化財部 文化財課
深沢地域整備事業に関すること…鎌倉市 まちづくり計画部 深沢地域整備課